

平成27年度第2回南部地域政策総合会議 会議録 概要

1 開催日時

平成28年2月29日（月）午後1時30分から午後3時50分

2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

3 出席者

(1) 委員 13名（6名欠席）

① 地域住民代表委員 13名

青木委員 石本委員 尾崎委員 加藤委員 小林委員 酒井委員 鶴委員 殿谷委員
濱崎委員 林委員 平井委員 平岡委員 町田委員

② 県委員 1名

小泉南部総合県民局長

(2) 管内市町長 4名（1名欠席）

岩浅阿南市長 坂口那賀町長 福井牟岐町長 影治美波町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

① 「徳島県南部圏域振興計画見直し（案）」について

② 「南部圏域課題解決プラン見直し（案）」について

(3) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 平成27年度第2回南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料 1 南部圏域振興計画・課題解決プラン改訂版の概要
- ・ 資料 2 振興計画見直し主要箇所一覧
- ・ 資料 3 徳島県南部圏域振興計画見直し（案）
- ・ 資料 4 南部圏域課題解決プラン見直し（案）

<発言概要>

(A委員)

Aでございます。よろしくお願いいたします。時間の関係上、少し早口ですが、御意見を述べさせていただきます。よろしくお願いいたします。

皆さんこの、私の左手のリング、何かお分かりでしょうか。はい、つけていただいている方々もたくさんおられます。認知症サポーターの証、オレンジリングでございます。

平成25年6月に公表された厚生労働省の最新の数字では、65歳以上の4人に1人が、認知症またはその疑いがある、という指標が出ております。徳島県だけでも、約6万人と言われております。

そして平成37年には、団塊の世代の皆さま方が全て75歳以上になられます。なおかつ、全国キャラバンメイト認知症サポーター養成講座の協議会のデータによりますと、総人口に対する65歳以上の人口の割合、高齢化率を出しますと、全国で25.6%、徳島県では29.5%、そして阿南市は29.3%、那賀町・牟岐町・美波町・海陽町ですと40%を超えているといった高齢化率がほとんど出ているんですね。

実は私、午前中、那賀庁舎で認知症サポーター養成講座をやってきたところで、今日、非常にしゃべりがいいのですが、それについて、御意見をさせていただきます。

資料4、プラン4「健やかに暮らせる保健・福祉・医療等の連携体制の充実・強化」にあります、認知症サポーターの数の目標なのですが、平成30年に向けて1万人と、指標が出ております。

その通りでありまして、もっと県民にオレンジリングを広げられるように、行政機関、公共機関のみならず、企業や、もっと教育現場へも、もっと講座を推進する必要があると、考えております。

また先般、阿南市が行いました”オレンジカフェ”のような、もっと気軽に認知症のことが、なんとか相談所とつくと、非常にかまえていってしまうので、そうじゃなくて、ちょっとお茶を飲みながら、専門家の方がいらっしゃるような、談笑できる場を、もっと推進していく必要があると考えてございます。

それと同時に、このオレンジリングと併せまして、もう一つ、こちら、”伝える・学ぶ・活動する・教える”バッジもいただいております、知事から。”くらしのサポーター”です。

今まさに、徳島県、消費者庁の誘致に向けて、挙県一致で協議会も立ち上げました。今まさに最前線は、徳島県民の最前線は、”くらしのサポーター”なんですね。このサポーターの数も、県南域、もっと頑張っていこうと。どうしても、消費者協会の皆さんに依頼してですね、サポーターを増やしていくような傾向がありますが、それじゃあ駄目ですね、はっきり言って。そこで私の提言としましては、この認知症サポーター養成講座と、くらしのサポーターをコラボレーションしていただいて、同時にもっと養成していくといった流れがいいんじゃないかと思っております。

何故かと言うと、高齢者の方の見守りネットワークが必要でございます。それにおいて、高齢者の消費者問題プラス認知症の知識、理解があれば、もっと防げる問題がたくさんございます。そういった視点で、今後、南部圏域、徳島県としましても、同時にサポーターを養成していくことが必要なんじゃないかと考えてございます。特に、くらしのサポーターにおきましては、”くらしのサポーター

Jr”なるものを作っていて、中高生の教育の場としても、特に県南域はサテライトオフィスの、ITの企業さんたくさんおられます。何が言いたいのか、ネット社会ですね、ネット社会に対する怖さであったり、利便性であったりというのを、もう少しくらしのサポーターを活用しながら、教育の現場にも、もう少しアピールしていく必要性、また、教育の現場で対応していく必要性があると考えてございます。

大きな2点は、その2点でございます。

そしてもう1点最後、DMVについて、いつもこの場で発言させていただいております。やはり県南部の夢と希望であるDMVの導入について、今現状どうなのか、県民の目線から見ると、徳島新聞等で報道されている、どうなんだろうといった不安視もされております。現時点で分かる範囲で結構ですので、また、お答えしていただければありがたいかなと思います。以上でございます。

(B委員)

2点、お聞きしたいことと、思うことを述べさせていただきたいと思います。先ほどと、ダブるところもあると思いますが、プラン4の中で「健やかに暮らせる保健・福祉・医療等の連携体制の充実・強化」においてですけど、やはり、高齢者が病状を抱えた状態で自分らしい暮らし、生活を続けられるよう、サービス提供体制の整備を、皆さん一所懸命推進されておりますが、しかし、南部Ⅱ圏においては、長期療養病床、ずっと言っておるんですけど、やはり点数の問題であるとか、いろいろ経営の問題がありまして、出来ておりません。

つくづく今回は、県立海部病院、新築になりますが、10年後と言わず、やはりこの長期療養病床も、選択の一部に入れて欲しい。何故ならば、私の身近でもありましたが、自分の住み慣れたところから余所の地域に行って、そこで亡くなってから帰る。それが、後を絶たないんです。

私たちが一所懸命、10年後、10年後という感じで待っておりますけど、在宅医療も大切です。しかし現状を見ますと、一人暮らしの方が多でございます。だから、自分がどこで、どのようにしていけるか、それぞれ違うと思いますが、長期療養病床も、一つの選択に、入れて欲しい、前向きに考えて欲しいと思っております。

それに続いて、自分の考えなんですけど、海部病院の跡地ですが、一部に長期療養病床を置いていただき、それを診ていただける先生はおるんです、います、そういう風な先生もおいでますし、先生一人で長期療養病床を診れるんです。

また、海部病院の跡地に、私の構想ですが、一番上に長期療養病床、下に認知症カフェ。婦人会も1月に、認知症と仲良くという寸劇もいたしました。住民は住民で、認知症の方と仲良く暮らせる、明るい優しい街づくりをしつつ、勉強しながらやっておりますので、どうぞ、健やかに暮らせる南部地域、それがうまいこと行ったら、外部の、東京とかそんなところから、人を呼べるんじゃないかと考えております。

二つ目は、プラン17の地域高規格道路の海部道路の整備促進においてなんですけど。海部道路といっても広うございますが、牟岐バイパスも、なかなか出来ておりません。ほんとに許可下りてから、まだまだ出来ておりません。これに対して、今、海部道路、調査中。手つかずの海部道路もございま

す。1月の31日に、道フォーラムに行ってまいりました。住民から国の方に、訴えてきました。その時に、向こうの道路局長が言いました、「どのような、いつ、何のために、整備する必要があるか、それを明確に訴えてください」。

いうても、住民が勝手に、何年までにつけてください、と言っても。

私は3年。東京オリンピックが4年後にありますよね、4年でどうですか、いや4年では間に合わないでしょ、3年では。3年で高規格道路がつかはず無いんですけど、ゴーサインを送ってほしいと頼んできました。

だけど、いつもいつも頼みに。皆さんも頼みに。町長を始め、知事さんも頼みに行ってくださるんですけど、国の方は、なかなかOKださんのです。どうしてですかと聞いたんです。住民は、それが一番知りたいんですけど、この資料どこさがしても、入ってない。調整中。この調整っていうのは、どういうことなのか、住民に分かるように。

また、この3月15日に、海部郡の3町長、3町で一所懸命補助もしていただき、住民も頑張っていて、その宿題の、何のために整備する必要があるかのキャッチフレーズ、これをわたし出来ませんで、行政の方に、牟岐の福井町長を通して県の方に依頼していると思いますが、何年後に絶対いりますと、県の職員さん、キャッチフレーズ上手ですから、頑張って考えていただいて。

それに対して、どのような返答をいただけるか、この3月15日。海部郡住民、賭けておりますので、県の方も。新幹線も大切ですけど、私らにとっては、道が大切なんです。国道55号線一つしかないんです。南海トラフがきます。いつ来てもおかしくないのに、道が出来てないと、住めないところになってしまう。ここを一番に、考えて欲しい。今日、副知事がおいでしておりますので、声を大にして。どうぞ、帰ってから、飯泉知事におっしゃっていただければ、ありがたいかなと思っています。よろしく願いいたします。

(C委員)

資料3の14ページ、社会資本の中で道路についてかなり書いてあるんですけど、豪雨のたびに、通行制限の区間が142kmもあるっていうことに対して、私はこの資料を見て、いまさらながらびっくりしております。私が住んでいます地域。岡川の整備なんですけど、44年かかって、まだ三分の一しか進んでいないっていう状況。その辺が、どういう形で、この社会資本の中でも、道路、Bさんも高速道路についてお話をされましたけども、高速道路も必要かもしれませんが、一般生活道路が一番整備していただかなければならないと思うんですね。

そういう意味で、この142.3kmもある、冠水して通行止めになる道路をですね、少しでも早く、なんとかしていただかなければいけないと。44年かかって、三分の一しか進まないような、岡川改修のような、そんな感じでは、とうてい生きているうちに、完成しないと思うんですね。

また、大野の場合、高速道路のインターチェンジが出来るんですけど、それが聞くとところによると盛土になるということで、そうしますとまた、水の捌け口が必要になってくるんじゃないかと思う訳なんです。インターチェンジだけでなく、大野には日亜化学の大きな工場があって、田んぼが全部駐車場に埋められていっているんです。そうすると、今まで田んぼの中で、水の確保という部分があ

ったものが、全部岡川に流れてくる。そうしたらほんとに、今以上に、豪雨がある度にですね、生活が出来なくなる。何かがあった時に、冠水して全然使い物にならないとなったときに、これからの高齢社会に向けて、どういう風に生活出来るのか。1人でも多くの人間を大野に来ていただく。住んでもらわなかったら、大野も過疎になっていく感じで、皆が困っている訳なんです。

そういう意味でもですね、県の方も、岡川だけではどうにもならないというのも、何十年も前から分かってらっしゃる。部長さんがこの前、お話しなさっている。前の部長さんが。やはり、岡川だけでなく、どうにか道路の冠水する部分を、水捌けの部分ですよ、それを違う方法を考えていただけないかな、というのがまず提案させていただきたいと思います。

それと、国道55号線について、今、四車線化という、交通量の緩和の問題が出ていますけど、信号があまりに多くてですね、スムーズに動きがとれない部分があるので、外国に行った時に、ニュージーランドなんかに行ったら、ラウンドアバウトって言うんですか、四車線で信号が無くても、ぐるぐる回って、右側に動いていったら、スムーズに動ける、信号が無い道路についても、考えていただければいいかなと思うんです。過疎地だからこそ、そういうことが出来るのではないかなと思うんです。ラウンドアバウトによる、交通量の捌け口みたいなものも考えていただければと思います。

米の価格の低下の問題なんですけど、休耕田がかなり増えていると思うんですね。米が安くなってきているものですから、作ったら赤字になる、買って食べた方がいいみたいなどころがあるんですけども、昔から大野はブランド米っていうて、どこに出しても恥じないぐらいの美味しいお米ができている産地でありながらも、それがなかなか高い値段で売れないというところもあるので、ぜひその辺も。一つの括りにして、米というものを考えるんじゃなくて、美味しいところの産地のものは美味しいものとして売れるような体制がとれたらなあ、と思うので、ぜひ考慮していただければいいと思っています。

(D委員)

1点だけ。計画の中の6ページに国勢調査の結果が出ておりますが、いよいよ、20年ぐらい前から予想はしていましたが、国勢調査でマイナスが出たと。この現実には、ショックなところが大きくて、39の都道府県が、社会減という結果になっています。徳島県も減っていると。かなりの率で減っている。このままの状況でいくと、たぶん、数十年後には、県として成り立つかどうかという人口規模になりそうだという雰囲気があります。

県南も含めてなんですけど、いかにして住んでいただくか、ということの研究しているのですが、いろんなパターンでいろんなことをやっている、いろんなファクターが出てくるんですけど、やはり一番何が欲しいかという「仕事」です。

仕事があるところには、若い人が来ています。次にくるのが、都会から近いところ、というファクターです。これは、もうどう考えても地形的に無理なので、いかに仕事をして満足度を高めて、住める場所をつくるか、ぜひお考えいただければと思います。

なんとかなるだろうと思いついて待っていると、気づいたときにはもう致命傷みたいなどころがありますので、お願いしたい。

あと1点、いろいろ考えていただいているところがあるんですけど、何を上位に、修正して、重点的にやるか、たぶんお金がそんなにないと思うので、何をまず、何年度までにやるか。次にこのぶん、その次にこのぶんと、全てをやるんじゃないくて、ある程度優先順位があってもいいのかなと思いました。

あればの話なんですけど、こういう資料の中にも、ここはこの辺まで、数字じゃなくて、ある程度、重要視してやりたいとか、やりましょうとかあると、もう少し計画性があるのかなあと思います。

(E委員)

今のDさんの仕事と、それから都会から遠い近いってことなんですけども、今までいらっしゃった方で大阪・神戸の方は、発言としては、都会から近いってことをおっしゃるんですよ、県南地区は。だから私、決して遠いとは思ってません。私も息子の車に乗ってみんなで買い物とかちょっと中華食べるかってなったら神戸まで行きますしね。だからそんなに都会から遠いとは私は感じてないです、それも売りにできるかなと思ってるんです。移住とか空き家のことをやって、移住フェアによく行くもんですから、県南地区に、三好とかも来てるんであれなんですけど、余所に回すことがすごい増えてきてるんです。うちの町に私の目線がきついかたくさん座ってくださるんですけど、うちの町に向いてないって思う人がいるんですよ。そしたらやっぱり三好どうですか、阿波市どうですか、海陽どうですか、牟岐どうですか、那賀町どうですか、阿南どうですかという風に振っていている場合がすごく多いので、それをちょっと皆さん考えて、全国から見るとうちの美波町だけって思っただけじゃないんですよ。県南全体が一つの町って思っただけじゃない感じがいらっしゃるんですよ。特に冬は、今一番人気である長野からいらっしゃるんですよ。凍るから嫌っていう、暖かいからここに来たいっていうていらっしゃる人が増えて来てるっていうことをよく頭に置いて、予断なく来たいと思う人を県南全体で連携を組んでやっていかないと、イメージアップにはつながっていかないと思いますね。そうしたらそれが県全体に来ても違うところに行けるっていうのがあるんです。で特に仕事のことなんですけれども、林業は私来たら那賀町さんお願いしてますし、それから農業はきゅうり農家さんとか、加茂谷さんとかもやってらっしゃるのでお願いしてますし、それから特に仕事なんですけど、一般の仕事の場合、うちはもう阿南をターゲットにお世話っていうかお話すようにしてます。ので、それもどうぞ皆さんの町それから各地区で予断なくちゃんとこうまとめというていただいたら、聞いたときにすぐ答えが出て、どこそこに住んでも通うっていうことができますので、自分とこの町だけで全部するのは無理です、今は。

あと一つなんですけど、コーディネーターやってると、まだ行政がしてくれる、コーディネーターがしてくれるとか思いがちなんですよ、住民の人が。もうそういうのはダメです。住民の人の意識をもっと変えることをやっていかないと、空き家があがってこないんですよ、こっちから聞きにいかんと。今日も実は行政の人に2件も空き家を聞きに行ったんですよ。向こうから言うてきて欲しいですね。そんなことがあるので、是非是非ほんとにあの、住民側が空き家持っても言うてくるぐらいにならんと進んでいかんと思いますんで。コーディネーター作るんもいい。空き家のなんか作るんもいい。いいんですけども、それをすればするほどなんかやってくれるわっていう意識が出てくるん

で、ほれはあかんと思ってます。ぜひそっちの方も力込めてやっていただきたいと思います。

(F 委員)

昭和南海地震から70年、23年3月11日から5年、間もなく5年が来ます。我々は、もうちょっと性根を入れないかんと思ってます。忘れかけてる人がいくらでもいる。もうちょっと我々は、その恐ろしさを周知させていこうと思ってます。

それから”迎え撃つ”ですかね。私たちはいつも強い気持ちで、迎え撃つ。その気持ちを持ってなかったら、防災に携わっている人間は、やっていけないと思います。私たちは、阿南まで、海岸をずっと見ていくんですけど、たいがいハード面では、いろんなもう、避難階段とか、山にはいろんな階段がついていたり、前に比べたら全然進んでいるなと思っています。

もし、私たちが被災に遭った場合に、どうしたらいいか、事前復興街づくりを、徳島大学の方と美波町の方と、それから地域づくりセンターと一緒に考えております。被災に遭った場合、今から考えるんじゃなしに、先もって考えておく。ここをこうしたら、ここ、ここ何か建てようか、そういうことを、今私たちは、ずっと、会を開いたり、ワークショップやっております。

それに、防災ばかりじゃ、なんか面白くないと思って、「防災カフェ」ですかね。うちら田舎の者はゆっくりしてるから、「まったりカフェ」と言うて、この前開きました。独居老人を引っ張りだそう、元気にさせよう、もし津波が来ても逃げられるよう、体力をつけようと、カフェに引っ張ってきています。

だいたい、今、週一回で40～50人来ていますので、いろんな体操したり、歌を歌ったり、お年寄りに元気を付けさせて。私たちも、本当に、四十何パーセント、年寄りがおりますから、まず年寄りをとって、頑張っているところです。

だから、これをいつまでも継続していかなければいけないと思っています。

(G 委員)

私事ですが、昨日、一昨日と、介護予防運動サポートっていう、資格をとるために養成講習会に行ってきました。また今年も、地域の活力創出徳島モデルの交付金で、介護予防事業としまして、65歳以上の対象の方に運動指導を行うという事業に取り組んでまいりました。

海陽町は4千人強ほどいるんですけど、3箇所ですら今回事業を行わせてもらったんです。

どういうところでやったかと言うと、包括さんが、街中でやられておられるので、それと差別化しまして、街中までは来られない方を対象に、山間部で、しかも交通手段の無い方向けに、送迎付きでやらせてもらったんです。

けっこう定員より盛況で、と言うても3箇所ですら70名ぐらいの方しか参加できない、というのが現状なんです。指導力、見れる人数というのが限りがあるんです。

で、今回思ったのがプラン4に書いてます、この話ばかり多いんですけど、認知症サポーター、介護予防でも、本当に急務なところなんですけど、1万人の目標を掲げておりますが、1万人とはいかなくても、簡単な運動の指導が出来る、なかなかでも難しいので、体操というレベルでもいいので、出

来るようなサポーターを、数名、少しでもいいので、その中にでも入れていただければ。サポーター養成もお願いしたいと思います。

先ほども出ていました海部病院のですね、認知症カフェの横に、運動施設が出来ればいいなと思います。夢の話になりますけど、ぜひ考えていただきたい。

私、こういう仕事しておりますと、いつも思うのが、高齢者指導しているときに、やっぱり運動習慣がある人と無い人では全然、ほんとに身体が、特に60歳以降になってくると、全然違うんですね。ほんとに60歳くらいになると、身体の体力レベルって、40くらい違う。やっている人とやっていない人では、やっている人は40代くらい、やっていない人では80歳くらいの体力レベルもあるので、開きが40歳くらいあるよっていうことなんです。それくらい、すごい変わってきます。で、どうしたらいいのかなといつも考えるんですけど、やっぱりこれって学校教育の時から大事なのかな、若い時からが大事なのかなと、すごく思います。

競技スポーツで強い精神力とか、強くするというのとか大事なんですけど、卒業とともに燃え尽きてですね、止めてしまうというのがほとんどなんです。スポーツってきついな、しんどいなっていうのが植え付けられていきますので、やっぱり幼少の頃から楽しいもの、あとはファミリーで出来るような、そういう集えるスポーツ施設もですね、大切なんじゃないかなと思います。

プラン13に書いてます「アウトドアの拠点づくり」ということで、すごいトップアスリートによるプロデュースとか、いろんなイベント、特に県南は自然のアウトドアスポーツが、盛んに今回こういう風な感じでやられておられるんですが、ぜひファミリー向けであるとか、あとアウトドアがすごい充実していますので、インドアでも、雨の日でも、冬であったり、あそこ行ったら楽しめそうだなっていう施設づくりを、ぜひぜひお願いしたいと思います。これはほんとに、介護予防に繋がっていくものだと思います。ぜひよろしくをお願いします。

(H委員)

この会に出席するために、資料を読まさせていただきましたが、それぞれの担当分野で目標達成に向かって事業を推進していただければ、本当に理想の街づくりになろうかと思います。絵に描いた餅にならないようによろしくをお願いします。

また、各市町村においても総合戦略が計画され、今後邁進されていくところですが、せっかく結成された推進委員の会議も、計画を立てるだけに終わらず、事業の見直しを兼ねて年に数回は協議を重ねていければ素晴らしい地域になるのではないかと考えております。

私は、もんてこい丹生谷運営委員をしております、毎月幹事会や運営委員会を開催して、町の人口の減少を食い止めるために協議をしています。平成27年度は、関西・関東ふるさと会の支援や、東祖谷中学校の飛燕祭、大分県の豊後高田市にご招待をいただき、もんてこい劇団が「もんてきた息子」のミュージカルを上演しました。そこで、フィナーレで地元の小中学生にも、もんてこいの歌と一緒に舞台上で歌ったりしていただき、子供たちの感想としては、自分たちの町にも共感できるところがたくさんあり、古里を思う気持ちや古里の宝物を守っていききたい、という感想も聞かれ、一旦都会へ出て古里へ帰ってきたいという、子供さんもたくさんおられました。

那賀町の成人式のアンケートでも、60人中、将来那賀町で住んでみたい29名、住んでいる方が既に11人あり、町内在住希望者は3分の2というところで、思ったよりたくさんの方が那賀町で住みたいと思われておりました。

この活動はもう7年目になりますが、実際にIターン、Uターンしてきた方は、私が数えたところでは200人余りあります。今後も、ふるさと回帰に働きかけるため、ふるさとツアーや、今年の2月には、Kさんにもお世話になったのですが同窓会ツアーなど、都会に出て行った人を呼び込み、帰ってくるきっかけになればと思い、開催しました。実際、アンケートをしますと、月に数回、年に数回帰ってきているという方が、たくさんありました。

都会に住む町出身者や、Iターン希望者に情報を今後も発信し、官民一体となり、住居や仕事の紹介などで移住者の増加を図ることは、大きな課題です。今後は、那賀町の方にも、もんでこいの活動をご理解いただくために、行事があるたびに住民が一丸となって「もんでこい」と言える町になるよう、意識啓発を図っていきたいと思っています。

28年度は、全町民がもんでこいの趣旨をご理解いただき、那賀町祭、もんでこい祭を開催し、住民を巻き込んで、町出身者にも参加してもらえるような行事を企画しております。

このままでは、町は消滅しかねない、危機感があるということ、全住民に持っていただくということがとても大切なことだと思っています。

最後に、安心して暮らせる町になるためには、早急に台風や豪雨による浸水被害対策をよろしくお願いいたします。

(I 委員)

私から、2点ほど発言させていただきます。1点はTPP対応、そして「きゅうりタウン構想」の推進についてです。

まず1点目は、TPP対応についてでございます。皆さま御存じの通り、TPPについては、昨年10月には大筋合意がなされまして、そしてこの2月には各国閣僚による署名による、協定が確定することになりました。TPPについては、県南の農業に大きな影響があると予想されています。

特に、主食作物である米の影響が、生産者にとって一番心配されるところであります。現在のところ、輸入量に対する国産米を政府が備蓄米として買い入れるオペや、経営所得安定対策による、飼料米の作付け推進などの制度により、影響は出ないと報道されているところでございます。生産者にとりましては、常に不安をもっています。これら制度の維持について、国などへ働きかけを一緒にやっていきたいと考えていますので、この点よろしくお願い申し上げます。

続きまして、2点目でございます。本日の資料の課題解決プラン6に位置づけられています「きゅうりタウン構想」でございます。この「きゅうりタウン構想」については、近年の地方創生の動きを受け、海部郡の特産である促成きゅうりを核とし、移住就農による担い手確保や、生産・産地拡大を目指し、地域活性化を図ることを目的としています。これまでの取組みといたしましては、県民局そして海部郡3町及びJAかいふで構成する、海部郡次世代園芸産地創生推進協議会を昨年の6月に立ち上げさせていただきました。また、新規就農、きゅうりの生産者を育成する「海部きゅうり塾」を

開講し9人の新規就農者が学んでいます。さらに、きゅうりのスイーツの開発・発売もされており、きゅうりのイメージアップに繋がっています。

現在の成果といたしましては「海部きゅうり塾」のうち、4名の方が今年新たに就農をいたしまして、きゅうり栽培に取り組んでいます。これらの取組みについて、多くのマスコミに取り上げられ、大きな反響を呼ぶなど、順調に推移をしています。今後さらに、新規就農希望者を増やしていくためには、海部きゅうりPRや、栽培技術指導、受入れハウスの整備、また移住環境の整備など、我々JAかいふのみでは対応できない場合もございますので、今後とも県民局及び各町の皆さまの御支援をお願いしたいと考えております。

最後となりましたが、JAといたしましては、来年度はTPP発効や改正農協法の施行を控えた、歴史的転換期となります。県民局及び市町村の担当者におかれましては、この南部圏域振興計画にもあります「もうかる農林水産」の推進をしていただき、我々JAは、もうかる農業の実現を最重要課題として取り組んでいますので、南部圏域における農業の振興を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(J委員)

資料4のプラン29、一番最後のページになって、文化の2文字が出てくるんですけど、ここに書かれているのは「伝統ある歴史・文化の継承」で、下の方には「埋もれている」「掘り起こす」と書かれていて、本当に早く、埋もれているものがあれば掘り起こさないことには、おそらく伝承芸能というのは、テレビの発達とともにだんだん下火になっていったと思うんですが、早く掘り起こさないとなくなってしまわないかと心配しています。

最近、地域伝統芸能フェスティバルだったか、そこで祭事であるとか人形浄瑠璃とか、休んでいたのが復活してきているので、とても期待しています。今日私がもってきましたピンク色の冊子ですけども、毎年1月に夢ホールで、阿南市新野町の人形浄瑠璃座、中村園太夫座の公演の冊子です。毎年足らなくて、今回、多めに刷ったところ大雪が降ったため少し余ったので、お配りさせていただきました。皆さんよく御存じとは思いますが、阿波鳴とか読んでみると、本当に泣けてくるお芝居だとよくよく分かってきたりします。3番目に入っているのが玉藻前、時代物です。時代物を演じられる人形座は、県内では勝浦座と中村園太夫座だけなんです。とても頑張って、だからこそ頑張っているんですけど、お話しがなかなか入り組んでいて難しいので、それで不評を買ったりしているので、今回、注釈を付けた冊子にしています。良かったらお読みいただければと思います。

阿南市には、もう一つ新野中学校民芸部が、人形浄瑠璃を演じているんですけど、中学校で終わってしまって、高校から先に繋がっていかない。一部高校が人形座をやっていたこともあるんですけど、休部状態。やはり中学校までやっても、その後忘れてしまって、中村園太夫座に繋がっていかないと、人形座の方も心配しています。なんとか高校で、もっと頑張っていかないかなあというのと、それと人形とか道具とか、やっぱり用意するのは大変なので、ちょっと今お休みしている人形座があったら、人形なり道具なりを、子供だちに、コーディネートできるようなシステムがないかなと考えています。

ここまでの伝統芸能なんですけど、文化は、今も私たちがやっている文化がいろいろあります。夢ホール市民協議会では、子供たちのために、小学校で音楽の出前授業や、子供のための音楽会というのを続けてきました。出前授業に行った時に、もちろん夢ホールでも子供たちに無料の演奏会というのも行っているんですけど、「なかなか連れて行ってもらえない子供もおるからねえ」と先生たちがおっしゃっていました。

連れて行く、というのも大変だと思いますし、子供は無料でも大人は有料だったりするので大変なのかなあと、考えたりしています。もう一つ、「子供のための音楽会」、実はこれ有料なんです。親子で聴いて欲しいんですが、やはり貧困の問題であるとか、大人たちが忙しいというのものもあるかもしれないんですけど、貧困で来れない、その子供たちのためにも、何か出来ないかもしれないけども、決して忘れてはいない、目を向けたい、気持ちは持っているからねと伝えたくて、そういう子供たちが来れないかなと、今、検討を始めています。

福祉課の協力を得て、生活保護を受けている子供、家庭の、小学校3年生までの子供たちのいるお宅に「子供のための音楽会」の招待状を渡して来ていただくようなことも考えているんですけど、実現の可能性はあるんですけど、それだけで良かったのか、私たちの考えではなかなか思いつかなくて。子供たちに直接音楽を届けるとか、芸術に触れる機会を持ってもらう、何か方策があれば教えていただきたいと思います。

脳科学者の茂木健一郎さんのお話の中で、音楽を楽しんでいる時に活性化する脳内のニューロンは、人間が生きるために必要な欲動を司る、生きたいという思いですね、同じ部分が働いているそうです。頑張って生きて、認知症の方を応援しようとか、身体を動かして頑張って生きようとか、想いの元になるのが、音楽が作り出すんだと言われています。それと、生の演奏を聴くことほど大切なことはない、「生身の人間がここで演奏している」「頑張って演奏しているなあ」と思いながら聴くことが大事だと言われています。生の音楽を、生の音楽だけではないですけど、生の芸術に触れる機会というのを、ぜひぜひ子供たちに。

最近、大人たちが楽しめる芸術・文化事業が多いかなと思うんです。もちろん大人の方たちの癒やしになったり、生きる力になることも大切なんですけど、児童権利宣言だったか、「私たち大人は子供たちに次世代のため、っている最善のものを伝えなければならない義務がある」とあったと思います。最善のものを伝える義務として、私たちの活動としては文化ですけども、伝えていきたいと思えます。

今回、もう一つチラシをお配りしたんですけど、ピンクの小さなチラシですが、一つは3月12日に行うホワイエの演奏会で、もう一つが4月23日の3人の人が写っている写真、一番右端の山田沙織さん、ヴィオラを抱えている女性ですが、この方が阿南市的那賀川町出身です。富岡西高校出て、中学生の頃から知っているんですけど、今は東京芸大、大学院生で、先日1月に神戸国際コンクール弦楽器部門で最優秀賞並びに神戸市長賞を得た方です。阿南からも、徳島からも、こんな風に頑張っている人たちが出てきたというのは、夢ホールができる頃とにかくここで頑張った子なんですけど、そういう文化的な環境があったからこそ、こういう風に生まれてきたのかなと思っています。子供たちに本当の文化を伝えていける活動を続けていきたいと思っていますので、先ほど言った「貧困の子

供たちにも、音楽なり芸術なり触れる機会を持ってもらうための、こういうやり方があるよ」というような、教えていただければと思っています。

(K委員)

つい最近、千羽トレイルの13kmを走ってまいりました。素晴らしい大会なので、これからもぜひ。7年前には70人から始まって今は900人と、素晴らしい大会ですね。今後とも、続けていただきたいと思います。

最近に、千葉の幕張で、ハラールのサミットがありまして熊谷副知事さんとお会いできまして、その節は大変、ありがとうございました。今日、お見えになることが分かっていたのですが、急遽ですね、先ほど資料3枚配らせていただきました。この、鹿の害の現状を知っていただきたかった訳です。那賀町は24年から27年の10月までで、5、636頭を捕獲されております。そして私が今、施設長で頑張っております鹿肉の加工所、5年前にできました。徳島県では第1号店でございます。おとついでで、548頭を、合計、やらせていただきました。ということで、この資料の1枚に書いてあります、日本ジビエサミットなどを、ぜひ徳島県で開いていただきたいのでしょうか、ということで、ご検討をいただきたいと思います。

通告をしておりまして、2件でございます。

限界集落に住む私にとって、一番大切なのは道路でした。県庁に行くのに一番近いのは、いつも思っておりましたが、193号線、神山周りでございます。60km少しです。阿南市を周りますと、82kmあります。できればその国道193号線、ついこの前、知事さんのところへお寄りさせていただきまして、交互に通行できる、”私が来てますよう”という信号機を付けていただけるようになりました。ありがとうございました。甘えたことばかり言いますけども、改良の方も、お願いできればと思います。

それと県道16号線。県議会の方でも今、質問が出ておるとは思いますけど、私にとっても、16号線は、入り口にあたるんですね。自宅のすぐそばから16号線が入っております。その道も、トンネルなんか、ぜひ検討の課題として、トンネルを新しく。検討していただければなあと思います。あまり大きなのは要りませんので、これだけはひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

(L委員)

3点言わせていただきます。

今、家に子供が、1歳児と4歳児の子供がいるんですけども、まだまだ1人で遊べる状況ではないので、一緒に遊んでいるんですけど、農業、仕事柄、雨の日は、農業は一緒に遊べないので、そこら辺で遊んで、と目に見えるところで遊んでもらっているんですけど、雨の日になると、不意に、それじゃあ午後から休みにしようか、という日になったりするんですけども、じゃあ遊びに行こうかと思っても、移動、遊びに行く場所にしても、徳島まで2時間かかってしまうので。高知までも2時間かかるし。ここ阿南でも1時間半かかってしまうので、どうにか家の近くに、移動して10分とか、最大でも30分くらいのところに、雨の日でも遊べる場所があれば、子供たちも身体を動かして、

しっかり走り回れるところがあればいいなと思い、言わせていただきました。

二つ目は、ファミリーサポートというシステム。サポート体制があって、子供を見ますよという体制があるんですけども、平日700円で、休日だと1時間800円と、かなり高い料金設定になっているので。普通のパートとかしていても、時給700円ぐらいで働いていたら、急遽パートに行っても、子供を預けて自分は働いているというのにプラスマイナスゼロ、またはマイナスになるんじゃないか、という感じなので、何がサポートなのか、本当に緊急の時に、マイナスでもどうしても預けるという状態でしか使えないような料金設定になっているという気がするので、もうちょっと料金の方を考えていただければと思います。

あと、私は大阪からきたのですけれども、やっぱり旦那さんが海陽町に住んでいたのが嫁いできたんですけど、友達もいない状態で、ポンと入りまして、そして初産で育児となると。やっぱり子供が保育園に行き出すと、ちょっとずつ顔見知りも増えてきて、心にゆとりも出てきたんですけど、子供が1歳までは保育園も行かなかったの、すごくやっぱり。そして過疎化ということで、周りにお年寄りとかしかなくて、寂しい思いもしたので、都会からどどん人に来て欲しいと考えるなら、集合住宅をここに造りますよというのを提案してみて。やっぱり、家の向かい側の人もこの前出産したんだなあとか、そんな環境があれば、寂しい思いをする人が少なくてすむんじゃないかなと考えまして、言わせていただきました。

(M委員)

まず、去年の12月20日には、指折り数えて待つておりました、念願の阿南小松島黒河バイパスが開通し、ありがとうございます。ここに来ましたら、Kさんが「良かったね」と言ってくれたので、何かなと思ったら、やっぱり那賀町から徳島にぬけていくのに非常に便利ということで、私の顔を見るなり「良かったな」と言ってくれました。ありがとうございます。地域住民も念願ということでして、開通式の日にはとても元気をいただきまして、ありがとうございます。

那賀町の方はもちろんのこと、あの道は大塚の鷺敷工場の社員さんも非常によく通勤に使用をしております、引き続き黒河バイパスがもっと価値が上がるよう、旧の檜野石灰から新しく付けていただいた橋までの間がとても狭くて危険です。本当に危険です。車の通行量も多いのに。やはり鷺敷とか那賀町に行くのには、那賀川に沿って行くのが最短距離だと思いますので、鷺敷に行きたい人、最短距離を通りたいんですけど、道が狭い故に、桑野の方を回って鷺敷に行っている方たくさんおいでますので、引き続き、この間造っていただいた”夢の橋”がもっと立派なものになりますよう、ますますよろしく願いいたします。地域の方も、土地の件は全面的に協力すると一言伝言を頼まれましたので、今日は知事さんおいでしてませんが、副知事さまどうかよろしく願いいたします。

それと、先ほども言いましたけど、徳島から那賀町へのアクセスは、既に造ってくれております榎川バイパスと沼江バイパスを通して、黒河バイパスを通ると一番近いので、その間の道も、持井とか広がるともっといいと思います。これは徳島の県南の発展にも、経済の発展にも繋がろうと思います。

持井の橋を降りたところ、あの街道は日亜の社員さんがすごく通っていて、大渋滞が起こっている中、橋を降りたところ工夫して。警察の方が、今日、副署長さまがおいでですけども、工夫してくれ

ているんです。あそこは、改善されたと思うんですが、持井の橋を降りて左曲がって、信号ですね、信号を付けていただきました、櫛淵に行く方と勝浦に行く方と、付けていただいて、ありがたいんですが、また問題が起こっているんです。

あの信号を右に降りる、櫛淵に折れる車が一台止まりますと、徳島に行く人はまっすぐ進めないんですね、信号が短いので。あそこまで大渋滞が起こって、持井の橋を降りたところから渋滞が起こっております。朝は日亜化学に来る車が、本当に本当に多いんです。汽車に乗り遅れた学生とか、小松島高校に行っているお母さんとかは、学校まで再々送っていかないかんというぐらい、渋滞が起こっているということなので。信号は警察の方の担当ということですので、この場を借りてお願いいたします。

それともう1点ですが、やはり洪水の件です。昨年の鬼怒川の洪水の堤防の決壊はとても衝撃で、特に昨年と一昨年は加茂谷地区、大きな浸水被害に遭ったので、日々不安を感じております。那賀川では、上流の長安ロダムの改造による洪水調整の能力や、治水面でのハードの対策を進めていただいていると、この前の説明会で聞きました。中流域域では、無堤防地区であった深瀬地区にこの春、堤防を造っていただいております。加茂地区や那賀町の和喰地区では、今年から堤防の工事に入っております。5年くらい後には新しく堤防が完成すると聞いております。これも、ありがとうございます。長い間無堤防地区であった深瀬地区と加茂地区の堤防にも目途がついて、みんなありがたいと思っております。この那賀川の堤防工事は、昭和の初め頃に下流からだんだんと来て、加茂・吉井まで、40年代に楠根地区まで完成したと聞いているのですが、私の住んでいる吉井地区ですね、非常に土手が古いということで台風が来るたび、水漏れがしているということで、ちょっと雨が降ると”避難してください”と言われます。今日お願いするのは、加茂と深瀬の土手ができることはとても嬉しいのですが、吉井小学校がある辺りの土手が古いので、洪水時のシミュレーションや、点検に基づく危険性とかを住民にも説明をしていただいて、注視していただいたら、ちょっと安心感が得られるように思いますので、これもお願いしたいと思っております。

山添いの土砂災害については、そういう周知をしていただいているので、山沿いの方は安心しているということなので、土手についてもお願いしたいと思っております。

(交通戦略課)

DMVなんですけども、デュアル・モード・ビークルといいまして、線路と道路を切れ目無く走れる車両となっております。このDMVに関しまして、最近報道各社の注目をいただきまして、つい先日も朝日小学生新聞、子供向けの新聞に、一面に取り上げていただきまして、この新聞が全国で11万部くらい発行されているということなんですけども、全国の多くの子供たちに、DMVのことを、わくわく思いながら、読んでいただいたのかなと思っております。

その夢の乗り物、DMVをですね、県としましては地方創生の起爆剤、県南観光の起爆剤と捉えまして、1日も早い阿佐海岸鉄道への導入を目指して取り組んでいるところです。

で、その状況なんですけど、昨年の10月30日に国土交通省のDMV技術評価委員会、こちらの方で中間取りまとめという形で出てまして。その導入の前提条件といたしまして、まず「専用線区」、

これはDMV専用の線路ということで。次に「単車運行」、これは1台で走りなさい、2台3台連結するのはいけませんということで。さらに「行き違い無し」、つまり単線ですね、複線で行き違いをするのはいけませんということです。これらの条件はありますが、技術的な問題はなし、ということで実用化は可能という方針が示されております。

で、今の条件は、阿佐海岸鉄道では当てはまり、阿佐海岸鉄道への導入は可能であると受け取りまして、導入の推進をしているところであります。

阿佐海岸鉄道でどのように実用化していくか、というところなんですけど、実はこのDMVという車両は、JR北海道が、JR北海道管区の中で導入を目指して開発してきたところなんですけども、ご承知のとおり、JR北海道さんが中断しているところであります。徳島県がフロントランナーになっております。導入が実現すれば、世界初の導入というになりまして、世界のフロントランナーに立っている状況でございます。

ただ、フロントランナーならではの、切り開いていかなければならないことがございまして、そこを今後、調整して進めてまいりたいと考えております。

その調整をどういった形でしていくかというところなんですけど、阿佐東線DMV導入協議会の設立を考えております。DMVは、いろんな企業・自治体の関係の中で導入を進めて行かなくてはなりません。まず主体となる阿佐海岸鉄道、鉄道車両や鉄道の設備の関連の企業、沿線の自治体さん。そういった複数の者による導入を進めていかななくてはなりません。そういった関係者の構成による協議会を設立いたしまして、協議事項といたしましては、今後の整備スケジュールや維持管理体制の構築、こういったものについて協議を行い進めていきたいと考えております。現時点では、協議会を1日でも早く立ち上げるべく調整しているところです。

あと予算の面なんですけど、平成28年度の予算として要求しておりますところなんですけど、額にして1,320万円、当初予算に要求しております。内容は、車両がこれまでに無い新しいタイプの車両ですので、導入にあたっては、既存の鉄道事業の事業計画とか、鉄道施設の変更作業とかが必要となっております。そういった変更の手続き。併せて、駅舎、道路と鉄道を行き来するための設備の変更であるとか、駅舎改築の詳細設計、こういったものにかかる予算を要求しております。

そういったことで、1日でも早い導入を目指しておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

(県土整備部長)

B委員さんから、四国横断自動車道に繋がる阿南・安芸自動車道、中でも海部道路ということで、御意見をいただきました。海部道路につきましては、地域高規格道路、阿南・安芸自動車道ということで、非常に規格の高い道路の計画でして、国土交通省さんが事業の主体となる道路事業です。

阿南・安芸自動車道につきましては、桑野道路、福井道路、日和佐道路、そして海部道路という形で順次道路名がついておりますけれども、特に海部道路につきましては、南海トラフの巨大地震が起これると地域が孤立するということで、特に津波を回避するような区間からでも事業に入ってもらいたい、ということで県からも強く要望させていただいておりましたところ、平成25年には牟岐町からおとなり高知県の野根までの間、ここが計画段階評価の対象区間に位置づけられまして、平成27年

4月にその評価の手続きを終えたという状況です。それでB委員さんが言われましたとおり、地域の方々の非常な熱意をもって要望されているということで、毎年のように、去年も11月にフォーラムを開催して、その声を先月、1月に届けていただいた。先ほどのお話では、3月にもそういった声を届けていただけるということで、非常に心強く思っておるところでございます。できるだけ早く、事業着手できるように、県に協力できることにつきましては積極的に取組みさせていただきたいと思っております。

道路の関係で、他にもいくつかお話しいただきました。

C委員さんから、ラウンドアバウトという交差点についてお話しいただきましたけれども、ラウンドアバウトといいますのは、信号の無い、環状の交差点でして、欧米等でよく見られる形式です。国内でも、かつては駅前ロータリーという形で、よく似た形式の交差点がございましたけれども、交差点の中央に大きな島がありまして、交差点に入ってくる車は、全て左折して交差点に入って、ぐるっと時計回りに回って、また左折して出て行くということで、そういう風な形式の交差点です。このラウンドアバウトという形式につきましては、信号が無いぶん、非常にスムーズに交通が処理できるということで、赤信号で止まることが無いという利点があります。また、交差点の手前でほとんど全ての車が大きくスピードを落とすということで、重大な交通事故が減るというメリットがあると言われております。

一方、交通量が多くなりますと、そういった形式ではやはり交通が処理出来なくなる、要は交差点に入れなくなって渋滞が起こるといったことが想定されることや、自転車や歩行者にとって危ない場合も出てくる可能性もある。既存の交差点にそういった形式を採用しようとした時には、隅切りの部分で新たな用地取得が必要になる、そういったことも想定されるということで、具体的な導入箇所については、具体的に現地を調査いたしまして、そういった形式が採択が可能かどうか判断する必要があると思っております。ただ、このラウンドアバウトという形式は今非常に話題となっておりますので、国自体も制度の導入に向けまして、制度化であったり検証という形で進められておりますので、県におきましても、動向を注視してまいりたいと考えております。

K委員から、193号の改良、また県道16号線、これは徳島上那賀線という道路になりますけど、その改良をとということで御意見いただいております。193号につきましては、ご承知のとおり、高松から海部の方に抜けていく国道ということで、特に木沢と神山地区を結ぶ区間というのは未改良のままに残されているという状況ということで、委員からは毎年のように強く改良等の御要望をいただいているところです。これまでも待避所の設置、さきほど委員が言われましたように対向車接近表示システムということで、交通が出来るだけスムーズになるよう設置もさせていただいているところです。もちろん、災害時における緊急輸送道路となる重要な道路ということで認識しておりますので、引き続き検討させていただきたいと思っております。

もう1点、八重地のトンネルのことで。県道の16号線といいますのは、上勝と木沢を結ぶ県道ということで峠の部分には、今も八重地トンネルというのがあるんですが、それをもう少し長く、低くというような御要望かと思っております。ご承知のとおり、トンネルというのは非常に莫大な工事費がかかってくるということもございます。果たしてどれだけの、投入できる事業費に対しての効果があるの

か。あるいはネットワーク上どうなのか。優先度とか、いろんな話があろうかと思しますので、委員の貴重な御意見を参考にさせていただいて、今後の課題という形で考えさせていただいたらいいかなと思っております。

M委員さんから黒河バイパス、年末12月20日に、非常に地元の御協力もいただきまして、盛大に開通式が出来ましたことをお礼申し上げます。黒河バイパスとその手前の檜野の辺りの話ですけども、本当に大塚の通勤車が多いのと、いろんな工事での車両も通っているという中で、非常に地域の皆さんから、早く改良をと、いつも言われているところがございます。地域の総代会からも、待避所でもいいから、あるいはちょっと曲がりにくいところをちょっと広げてくれとか、お話しをいただいておりますので、順次検討してまいりたいと考えております。

それと阿南小松島線の持井橋の区間ですけども、この区間につきましては既に事業中ということで、鋭意用地取得の交渉をさせていただいているところですので、また昨年度もそうであったんですが、用地が買収出来たところから、工事にかかっているという状態でありますので、引き続き用地の取得を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(とくしま文化振興課)

特に、貧困の子供たちを含めて、音楽に触れる機会をとという御発言がございました。

徳島県におきましては、一つは小中高校生を対象にした入門コンサートというのを入場料無料で開催しております。残念ながら、会場が徳島市ですが。そういう形で開いて、招待状を送りまして、来てくださいと話しております。

それだけでは、聴くだけということになりますので、どうしても体験のうえではスルー、上辺だけのものになってしまいますので、もう一つは市町村と連携しまして、オールザ市町巡回公演という形で、各市町回っております。例えば、去年でしたら美波町さん、大変お世話になっております。演奏会を開催しまして、ここでは中央のプロの奏者を集めました「とくしま記念オーケストラ」というのがございまして、プロのオーケストラと地元小中学校の合唱団を編成しまして、合同でコンサートという形で去年開催しました。

このような演奏会に関しましては、去年美波町でございましたが、南部圏域ですと、その前には那賀町に行ったと思っております。こういった形で各市町村に、子供とオーケストラと一緒に演奏、そしてそこに自分たちが一緒に参加する喜び、この二つを味わっていただくという形で、地道ではございますが、取組みを続けている状況です。あと、音楽以外の文化団体に関しましては、先ほど補足であったと思っておりますが、それ以外に関しましても、各文化団体が次世代育成、継承という形でいろんな取組みを進めております。徳島県の方では、各種、県の方の助成もございまして、あるいはメセナの助成、いろんな助成の情報がございまして、こういう風な助成の情報を積極的に文化芸術団体にお出ししまして、出来るだけ文化芸術が次世代、少しでも継承していけるように、取組みを進めているところでございます。

今後とも、御協力をいただけますよう、引き続きよろしく願いいたします。

(阿南市長)

様々な御意見を拝聴させていただきましたが、私は阿南高専のDさんのおっしゃるとおりで、この人口減少というのは極めて深刻であります。これは全国、徳島県だけでなく、地方は。国勢調査の速報値でも阿南市では、7万3千人くらいで、3.9%。鳴門も3.9%。二桁台のところもあるんですけども。分かりやすく言えば、5年間で、私はいつもこう言っているんですけど、この5年間で、海部郡の方には失礼ですけども、海部郡と勝浦郡、上勝・勝浦合わせた、海部郡と勝浦郡が無くなったんだ、それが徳島県なんだと。そんだけの人口が減っている、2万6千人。

そういう風に考えると、これは極めて深刻なんですよね、人口減というのは。私は、今、いろんなお話が出たのは、人口があつての話だと思うんです。いろんなインフラ整備も、人口があつての話だと思います。人口を、これ以上少なくしないようにしていかななくてはいけない。

ほな、なにがあるんな、と言われると困るんですけども、阿南市もいろいろ子育て政策も思い切った事を行っていますけども、なかなか定着しません。増えません。そして日亜化学等、企業があつてもなかなか難しい。移住と言っても、そんな簡単にはいきません。Eさん、今いいことを言ってくれました。長野からこっちに来てね。阿南市も日本電工っていうのが、昔、今は新日本電工。あれは北海道の栗山町から来ましてね、北海道の。百何十人来ているんです。北海道から阿南に来たらね、「とにかく雪下ろしをせんでいいだけで幸せだ」「雪を見ないだけで幸せだ」と。私ら、雪見たら嬉しいでしょ。阿南市に北海道出身の方、いっぱいおいでます。よっぽどこっちが住みやすいと言います。

今度、阿南と那賀と美波が定住自立圏を結んで、この3月に牟岐と海陽町も同じ定住自立圏に、この三月議会で承認を得て、なる訳なんです。これでもう、私はやっと、本当に県南が一つになったなあと。合併はしませんよ。合併はしないけども、本当の家族になったなあと、思っておるんです。

10万2千人おるんですよ。阿南と那賀と海部郡で10万2千人。ただしですね、県境越えまして、高知県の安芸まで、私はいつも阿南・安芸・室戸と行きよるんですけど、芸西村までいれましたら、四国の東部は9市町村あるんです。安芸なんかは1万8千人しかおらんです。室戸は1万3千人ですよ。高知県東部で4万8千人。両方で15万人なんです。県南と高知の東部で。私はこの15万人を、一つのね、合併せんけど一つのもんとして考えて、全ての施策をやっていこうやないか。四国の東南部ということで。県境越えて。同じような悩みを抱えています。ですからそれを逆手にとって。県西は県西でやればいいと思います。県西、池田なんか、三好なんかは4つの境がありますから有利ですよ、香川も愛媛も高知ともいける。うちは高知としか出来ませんから。

だからぜひですね、南部総合県民局に高知の東部と一緒にですね、同じような考えで、同じような宣伝で、同じような地域で、やっていこうやないか、ということですね、私はやるべきではないかと。もうそうしないと、とても人口減少にストップはかかりません。高速道路、難しいです。

日本の国で、鉄道も高速道路も無い、ダブルミッシングリンクは、四国の東南部なんです。私は国交省に行つていつも言っている。宿毛の方は内陸に鉄道通っているんです。鉄道も高速道路も無い、ダブルミッシングリンクはここなんですよ、と。紀伊半島は高速道路、未だ出来ておりませんですけど。鉄道は通っているんですよ。鉄道も道路も通っていない、せめて道路だけでも、通してくれと。

そして、道路局長や河川局長のところに「あななん」のぬいぐるみを置いて、四国地方整備局

の局長のところにも、「”あななん”のぬいぐるみ」を置いてですね、陳情書もストック効果と言いまして、高速道路を付けたらこういう風に地域が良くなるんです、というような、そういう陳情をやっているんです。付けてくれ、付けてくれ言うだけでは駄目なんです。こういう風に変わりますよ。医療の分野でもなんでもいいんです。もうそういう時代ですから。道路局長はかなり辛辣な事を言います、彼は。しかし、その人物を納得させるのは、こうなるんだ、こういうストック効果があるんだ、とね。以前、国交省のある道路局長は、徳島県は陳情に来るのが少ないって言いましてね、ケンカになったんですよ。東北地方は新幹線がついて、高速道路がついて、なんぼでも陳情に来れる。徳島からだったら飛行機で、飛行機代をようけ遣って、そして頼みに来ないといけないんですよ、便利になればなるほど頼みに来れるじゃないですか、私らが頻繁に頼みに来れるよう道路をつけてくれと、そう言ってケンカになったんですよ。

そういうことを中央の人は知りません。田舎に道を付けてなんぼのもんだと。そんなものを変えていくためには、もうこれ以上人口を減らさない、私たちの生活を守っていく、必死の思いでね、やらない。生半可なことでは、駄目だと思います。

たいへん私、きついことを言いましたけども、そのぐらい腹を据えて取り組まないと、あかんというのを、ぜひ理解してもらいたいと思います。

(那賀町長)

私の方からは、Hさん、Kさんから御指摘いただいた分も含めてでございますが、総体的に申し上げまして、今阿南市長さんがおっしゃられた通りなんですけど、やはり那賀町、それぞれも含めてですが、それぞれの自治体、総合戦略を策定しております。この元といいますか、根本的なのは人口減少を抑制しようというのが、一番なんです。

ただ、やはり簡単には、なかなか人口を増やす事はできんし、抑制すると言っても、那賀町も本当に2日に1回亡くなる方がおいでる。50人、もってこいの運営委員会の方に、連れ戻していただいても、150人の方が亡くなっている。そういう中ですからね、本当に人口の抑制、減少するのを押さえるというのは非常に、課題は多いと思っております。しかし、その総合戦略の中で2040年、3,320人になるといわれておるんですが、5千人の維持をしていくと、目標数値を掲げております。

そして、なんと言っても今後において、その目標達成に向けての、どういった形をつくっていくのか、どういう施策をやっていくのか、という事が非常に重要になってきますので、この見直し等についてもそうですが、今後5年間、まあもう4年間無いんですけど、その中でどういった事業を行っていくか、どういう施策をやっていくかというのが、非常に重要になってこようかと思っております。

そうした中で、那賀町の浸水対策、これは非常に重要になってきます。那賀町で定住してください、来て下さいと言っても「那賀町って水に浸かるでないか、そんなところに行ける訳ないだろう」ということになっては、なかなか人口の減少を抑える事は出来ないと思っております。

それからもう一つ、阿南市長が言われた高速道路なんですよ。やはり早急に阿南市、日垂まで、きていただきたい。それによって、大塚製薬さんも規模を拡大していただけるという計画を進めていた

だいております。県定住自立圏構想と、今後の県南のこれからの将来というのは、そういう部分にかかっていると、我々は認識しておりますし、阿南市さんともども高速道路の県南への早期の開設と整備については、共に国の方にもお願いを、同行させていただいているというのが現状です。

やはりそういったことで、今後において、早急な浸水対策を、この工事を県の方に進めていただくとともに、県事業でやれないところは那賀町でやっていくということにしております。そうしないと、一番この事業で、町外に出られる可能性が推定されるのが、マンション・アパート、賃貸におられる方なんです。この方が工事にかかると、移転対象になる賃貸住宅に住まわれている方は、早急な対応をしないと「ほんなもん阿南で住宅借りる方がマシ」ということになれば、全部、市部へ出て行きます。

そういったことで、せっかく「もんでこい」の運営委員会でもいろいろ活動していただいても、その倍以上の方が町外に出られたんでは困る、ということで早急な対応を進めている、いま計画を作っております。是非とも、運営委員の皆さん方にも、色々な面で那賀町のPRをしていただきたいと思っておりますし、今回の、ドローンの映画、これに基づいて、今までにない、那賀町の素晴らしいところを全国に発信出来るような、映画にしていきたいということで、那賀町、特に宣伝が下手くそなど言われますので、この際に素晴らしい那賀町の、多くの、ドローンの映画作品によって。またドローンのいろいろな運用の仕方によって、宣伝を広げて行きたいと思っています。

そういったことで、是非とも、いろいろご苦労があろうかと思いますが、今後とも御尽力賜りますようお願いしたいと思っております。

それからK委員さんの、国道の改良については、この193号は是非とも。我々も、ずっと望んでいることですので。今後においては、県の方にもある程度、一定区間を設定していただいて、計画的に改良を進めていただきたいと。これからも要望してまいりたいと思っております。是非ともお力添え賜りますようお願いしたいと思っております。

(牟岐町長)

みなさんおっしゃる事は皆似ているかも分らないですけど、今、各市町村の最大の懸案事項といったら地方創生ということだと思います。D委員が言われたようにですね、牟岐町は毎年2%前後、人口が減少しておりますので、5年間で10%超えて減っていると思います。

人を増やすためには、仕事とおっしゃいましたけども、どちらが鶏が卵かわからなくてですね、人がおれば仕事生まれる、仕事があれば人が来る、ということなんだと思うんですね。現実的に、今仕事がありません。だから、人が来ないんですけども、ただ一つの方法としまして、交流人口を増やす。交流人口を増やすことによって、仕事を生み出すというのが一番いいのではないかと考えております。それと、そちらのE委員、お隣においでますけども、E委員さんが、しきりにやっておられるように、空き家を如何に有効活用するか、これも一つの大きな解決策だと思っております。

今現在、牟岐町でですね、地方創生戦略、計画をつくっておるんです、途中なんですけども。二つの大きな柱でやろうとしておまして、一つは若い人たちの人づくりですね、それともう一つが「健康」をテーマとした街づくりということで、進めております。

どちらも、最終的には産業の育成とか、それから交流人口の増加を目指しているんですけど、特に「健康」については、先ほどBさんも言われておりましたように、海部病院をいかに健康的な施設として活用するかということに腐心、いま苦勞しているところでございます。県の施設であるので、勝手に考えて使うというのはおかしいんですけども、牟岐町の中心的な位置にありますので、いかに最大限活用するかということで、徳島県の皆さまにも御相談させていただいているんですけども。

皆さん新聞紙上でご覧になったと思うんですけど、役場が、耐震上ちょっと問題があるということで、どこかに移転しなければならないんですけど、あの地域全域が浸水区域に入っているんですね。那賀町さんなんかよく似ているのかもわかりませんが、那賀町は崖が崩れて安全な場所が少ない、牟岐町の場合は津波が来て安全な場所が少ないんですね。先ほど、那賀町長さんおっしゃっていただきましたけども、那賀町は、河川が氾濫するような所に来てくれんかわからん、とおっしゃっていただきましたが、牟岐町は、ほとんど津波がきて、来てくれんか分からんということになるんですけど、案外、若い人、そこら無頓着な方が結構おいでて、体力に自信があるのかわかりませんが、まあ逃げられるだろうとみていただけるだろうと、甘く見ております。

ですから、いかに魅力的な施設を発掘するかということが大事だと考えております。今、ここにチラシだしてくれてありますけど、出羽島アート展やります。出羽島の重要伝統的建造物群の選定を目指してもやっております、これが宣伝になると、県南の観光スポットの一つになるのかなと期待しております。

阿南市長さんおいでしておりますけども、阿南市長さんが阿南から安芸までの観光圏をつくって、皆でやっていこうという風におっしゃっていただいております。やっぱり一市町村だけでは、あまりいい所が無いんですよ。それと宿泊場所が、例えば牟岐町ですと民宿しかありません。ですから、お互いが弱い所を補完し合いながら、やっていけたらなと思っておるところでございます。

地方創生にあたりましては、徳島県さんをはじめ、牟岐町は力が要るところ、みんな力を貸していただいておりますので、委員の皆さま、なんでもお教えていただいで、いきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

(美波町長)

ほとんど言っていたいたようなところがございまして、K委員さんには、美波町で行われたトレイルラン、地下足袋王子として参加していただいでありがとうございます。

美波町から、委員として出席されておりますEさんとFさんから御意見いただいた件について、若干お話しをして、私の発言にさせていただきたいと思っております。

Eさんの場合は、住民の意識を変えていかなければ駄目なんじゃないかと、特に空き家対策ということで、美波町については本当に空き家対策、Eさんにコーディネーターとして頑張っていたいでございまして、移住も交流も徐々に進んできているところでございまして、空き家はたくさんあるのに、なかなか貸していただける空き家が少なく、というのが現状でして、引き続き、先ほどお話しがありましたように、一つの町でなく、県南全体が、というところは、先ほどお話しありました、一つの塊で、頑張っていきたいなと思っております。

次に、F委員さんからお話しありました件でございますけども、F委員さんには西の地防災きづな会の会長さん、ばかりでなく町の自主防災連合会の会長さんとして、本当に美波町の防災力向上に日々御尽力をいただいておりますことを、この場をお借りいたしまして、お礼申し上げたいと思います。先ほどお話しがありました、事前復興の街づくりの中で、特に由岐地区につきましては、人が住んでいる住居につきましては、南海トラフの想定では、97%が浸水区域という非常に厳しい地域でございます。そんなこともあって、高台へ事前に、復興計画を立てるにはどうすればいいか、ということで、震災前過疎っていうような言葉もありますけども、それをどないかしたいという思いが、自主防災会の方から出て来まして、徳島大学さんと徳島県の建築士会、そして美波町も含めた四者で昨年、コンペ方式というようなことで、住宅と住宅地の計画を出ささせていただいて、その内容はというと、避難場所プラス15戸程度の住居、そして地域のコミュニティがつかれる、というような事で、震災前過疎を無くすようなプランを提案してください、ということで提案をしていただきました。優良作品につきましては、現在、由岐駅にある「ぽっぽマリン」で展示をしているところでございますけれども、こういった活動の中に、地域の方々が、防災について、非常に、考え方であったり、意識が高くなっている、というのを実感しております。

会長が、一番、冒頭言われたように、東日本から5年経ち、っていうようなことで、本当に時間とともに人々の防災に対する記憶であったり、それから、悲惨さであったりというのも、徐々に消えていくと言いますが、関心が薄くなっているところがございます。そういった事を、ならないように、教訓を忘れないように、っていうことで、私たちも今後ともやっていきたいと思っております。今回の計画については、非常にたくさんの事業費もかかるものと思われまうけども、予定地の田んぼにつきましては、例えば建設残土を入れて高くするでありますとか、それから、ある程度計画ができますと、民間のデベロッパーに入ってもらえるとか、もしくは分譲して住宅を建てていただけるかどうかでありますとか、いろんな事を検討しながら、共にやっていきたいと思っておりますので、今後とも御指導と御支援、よろしくお願い申し上げまして、発言とさせていただきますと思います。

(副知事)

今日は皆さまには長時間にわたりまして、たいへん貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。

実は徳島県、昨年ですね、全国に先駆けまして、これから徳島県を大きく変えていこうという計画を3つ作りしました。一つは3月に、国土強靱化の徳島地域計画でございます。この中には、いろいろ減災防災対策もありますし、災害医療対策、それからFCP。BCPにならって、ファミリー継続計画、これも含めた地域計画、地域BCPの考え方も入れております。それから構造物など、長寿命化するための、ライフサイクルコストをどうかけていくか。そんなのも入れさせているところでございます。これが、一つの計画でございます。

そしてもう一つは、7月にですね、これも全国に先駆けてですが、地方創生総合戦略になります、「V S 東京『とくしま回帰』総合戦略」というものを策定させていただきました。もちろんこの中には、様々な各地域における課題を解決していくこともありますが、人を如何に呼び寄せるか、仕事を

どうつくっていくのか。その中で徳島版C C R Cのような問題の提起もさせていただいておるところでございます。

三つ目が、昨年の12月に策定いたしましたT P Pの緊急対策基本方針であります。これは10月の5日に、大筋合意した後に、直ちに「攻め」「守り」両面から、T P Pに対する対策をどうしていくのか、ということをつくらせていただいたところでございます。

この3つの計画は、本当に徳島を大きく変えていくものと思っております。そういう観点から、この平成28年度当初予算につきましては、4,851億円の予算を計上させていただいて、今、議会の方で御審議をいただいているところでございます。

全体的な流れとしては、そういうことで進めさせていただいておりますが、個々に、皆様方から御意見いただいた中で、道路の問題と、それから何点か、DMVの話とか、それから回答させていただいてますが、それ以外で少し、私の方から、意見を申し上げたいと思います。

まず、A委員さんからの御意見であります、そのオレンジですね、私も持っておるのですが、今日は持参しておりませんが、県の職員もかなり受けておまして、これを受けることで、認知症に対する、非常に大きな理解が、出来ますし、サポートにもなっていくんだらうと思います。そういう中で、オレンジリングと教育現場。高齢者と認知症というのは切っても離せないし、高齢者が消費者問題で、いろいろトラブルに巻き込まれることもあるので、この辺り、上手にやっていったらどうかというお話もありました。それは当然そのような話でありますし、先ほど、これはGさんの方からありましたが、スポーツも一緒にやっていったらどうか。正に一石二鳥、三鳥のような取組みをですね、オレンジリングを持った認知症サポーターと同時に、スポーツのサポーターであったり、高齢者の消費者問題のサポートにもなり得るんじゃないか。それは非常にいい話だなあと思って、聞かせていただきました。

DMVは、先ほど担当から申しあげましたけども、まさに北海道がですね、J R北海道が函館まで新幹線が来るということで有頂天になってまして、このDMVのやつは放棄してしまったということで、技術的には9割方出来ておる訳であって、短い線路であったり、担当から申しあげましたような事があれば、徳島でも実現が可能であります。これは非常に観光の面でも、地域の足としても、非常に重要なものでありますので、是非ともこれは実現して参りたいと思っております。

それからBさんの方から医療問題でたくさんいただきました。特に、長期療養の病床の問題でありました。海部病院の話もございまして、海部病院、今、牟岐町長さんからお話ありましたように、跡地をどうするのか、町の方からもいろんな御意見をいただいております。その中でですね、いろんな問題、議論させていただきたいと思っております。ここでも、Gさんの方から、病院の傍に、スポーツ施設でもできればいいんじゃないかと話をいただいております。これは町の方と、いろんな事で意見を言っていただいて、実現できるものは実現していければいいんじゃないかと思っております。当然、県の建物ですから、最終的に町と県の間でどうするかというのもありますけども。

道路ですね、特に海部道路については、これもBさんおっしゃられましたけども、阿南市長さんもお話ありましたが、私も何遍も国の方には要請に行っております。これは徳島県だけでなく、四国4箇所で、四国8の字、命の道ということで、ミッシングリンクのところを早くやってくれとお願いに

行きますし、全国の11都道府県でつくっておりますミッシングリンク解消の知事会、鳥取県の平井知事さんが会長されておりますが、そちらでも何度でも。

国の方はですね、なぜ必要なのか、ストック効果がどうなのか、必ず聞いてきます。ですから私たちは、それに対してしっかりとした理論等を持っていかなくてはならない。特に必要性については、海部道路については、鉄道も無ければ、道路は下を走っているのです、津波が来たら一発で終わってしまう。その時の地域の復興に一番役立つのが海部道路。これは私どもも、はっきり今までも申し上げているところでございます。そしてその道については、徳島県だけでなく、先ほどの話の四国4県、それから全国の11都道府県、それを含めまして、先ほど阿南市長さんからお話がありましたとおり、室戸市とか安芸市、あの辺の高知の東部の市町村の皆様方も、私たちのところに来られて、一緒に陳情して行ってくださいと、お話を受けております。これは徳島県から繋がって、ずうっと南に行きますから、出来た所からだんだん陳情の力が弱くなっているんですけども、これは引き続きやっていかなければならない、そういう思いは、私たち、しっかり持っております。

それから、Cさんからのお話でございますが、治水問題は、私たちの安心・安全を守る一番大きな課題であります。岡川は内水面になります、治水というのは、特に那賀川は大きな河川でありますので、本川と内水をどうリンクしてやっていくのか、これからの課題となってまいりますので、その辺りにつきましては、今、那賀川全体で、先ほど那賀町長さんお話ありましたけども、県が今進めております、長安口ダムの改修を進めております。長安口ダムの改修は何かといいますと、土砂がたくさん集まっている、この土砂をまず撤去していく、それからゲートがまだ高い、これを1m下に、掘り下げようとしています。これを下げる事によって、空にしておく量が増えます。それからもう一つ、一番大事なことは、同じ那賀町にあります平谷地区というところで、これは水が溜まってくると、あまり留めすぎると浸かってしまう、浸水ですね、それを今、町の皆様のお力添えも得て、撤去、移動、全部立ち退きをしていただいております。それができますと、最高水位を高くすることが出来る。それによって、洪水調整機能が、もう少し大きくなるんじゃないかと。それがダムの関連。

それから、あとは旧鷺敷町のところの堤防計画。それから、もう一つは大野、少し上流の加茂谷の所の総合的な河川対策。深瀬はもうすでに出来上がっておりますけども、そういうものをしっかりしていきながら、併せて内水面もやってやらなければならない。これはどちらが先か、なかなか難しいところがあるんですけども、本川と内水面を併せて、これからはしっかりと河川計画を立ててやっていくべきだと思っております。

それと米作りの話が出ました。これはI委員さんとも同じような意見であったと思いますけど、これからTPPが発効になりましてですね、美味しい米を一日でも早く作っていかうと、これは県南部では早場米で、しかもコシヒカリですね、今まではそれでかなり高く売ってきたんですね、ところがそれが今では半値ぐらいになってきたと。特に去年は非常に安くなったんですけども。そういうものも含めて、これを高く作っていく方法を、高く売れるものを作っていかなければならないと思えますし、それ以外にも、米で使えるようなものを作っていかなければならない。ブランド化をすると同時に、飼料米であったり酒米であったり、要はお金になることが必要なんです。お金になるようなものにしていくべきだと思います。これは当然ブランド化につきましても、今後とも進めて

まいります。

それからC委員さんからお話ありました人口減少。これはもう39都道府県で社会減ということで、聞くところでは大阪府も減るんだということで、大きなショックでもあります。

徳島県も何もしなければ40万ぐらいまで減ってしまうことになっていきますが、国の政策なんかを聞いておまして、今の処、県の人口ビジョンでは、60万から65万超というところに県の目標を定めて、それを一つの目標としての徳島県づくりを進めていこうと考えているところがございます。それから、仕事が一番という話も、Cさんからいただきました。仕事が先か、人が先か、という話も牟岐町長さんからありましたけども、仕事というのは、やっぱりつくらないとなかなかできません。そういう面で、先ほどIさんからお話ありました「きゅうりタウン」ですね、これ1千万、きゅうりタウンで儲けようという。若者が都会からやってきて、1千万儲けると聞くと、そりゃやろうと、必ず言う。それからよくある話、鳴門金時とかレンコンなんかのブランドの所には、産地の、必ず、後継者がいます。で、仕事がつくれていく訳です。ですから、新たな仕事を地元につくるっていうのは、見直してみると、しっかり残っているような気がしています。その辺りを我々が、如何に発掘していくか。特に一次産業、農業、林業、水産業ですね。皆さん方が、そんな汚い、きつい、そんな仕事やっとなんと言っておられますけども、よくよく考えてみますと、きゅうりで1千万。林業で、今、山の方で、林業すると400万、500万という収入があるんですね。そういうものを我々はもう一度発掘して、都会に出て行こうとする皆さんを止める、あるいは都会からも帰ってきてもらう、そういうものをしっかりつくっていかなくてはいけない、と思っておまして。

そういう面で、先ほど仕事というものは、大きな問題だと思っておりますし、一番力を入れていく課題だろうと思っております。そのために、私もいろいろお聞きするんですが、今年の4月に那賀高校に「森林クリエイト科」というものをつくることになっています。定員20名で、20名近くの方が来られたとお聞きしておりますけども、それを中学校の先生方に行ったら「なんで今頃林業やらすんや」というような答えが返ってきた。保護者の方に言っても、保護者も「いまさら林業なんか、危ないし息子にさせられん」と、こう言って皆、都会に送り出す訳ですね。都会に行くと、正社員になればいいですけど、派遣社員になって、高い家賃で狭い住宅で汲々とした生活をする。そんなことを考えれば、田舎でおった方がいい筈なんですけど、ところが御両親や先生方も、そういう気持ちにはなっていない。

で、私たちが行って、林業こんなですよ、機械で、安全・安心で、生産性も上がって、収益も上がって行くんですよ、これからは林業することが、日本の、徳島県の山を守っていくという、大きな使命感に燃えてできるんですよ、とお話をすると、そうだったのかと、やっとなんか分かる。

だから、そういうところまで、やっぱり地方創生というのは、細かにやっていかないと出来ないと、この話をして思ったところがございます。

それからEさんからの、空き家対策ですね。今、県の方でも空き家対策、力を入れてやっていこうと。4万数千、空き家があります。空き家をなかなか貸してくれない、これほどこも同じです。西の方ですね、東祖谷の落合集落というのを御存知だと思いますが、あそこはアレックス・カーさんという方が、アメリカ人ですけど、古民家を改修して宿泊施設に変えていって、全部で18の空き家が

あって、今、8しか出来ていない。残りの10戸は何故出来ないのかっていうと、自分が帰ってきたときに住みたいんだと、それから自分の物を他人に売りたいんだとか言って、なかなか進まない。中を改修して、帰ってくる時だけは、優先して、優先的に使っていただけますって話をしても、なかなか出来ない。ここはこれから、住民の意識を変えると先ほどEさんからお話ありましたが、確かにそのあたりをやっていかないと、なかなか空き家対策は進んでいかないんじゃないか、そういう思いがあります。

空き家対策は地域の活性化だけじゃなくて、安心安全の面でもですね、これは脅威となっております。空き家対策で、空き家が、住んでた人がいなくなると、非常に痛みが早くなって、ちょっとした地震でも倒れてしまう。倒れたところに避難路があったり、重要な施設があったりすると、それも大変でありますので、空き家対策は地域おこしと併せて、安心安全の面でも取り組んでいかなければならないと思っていますところがございます。

それからF委員さんから、あの話ですね。まさにその通りでありまして、実は今年、メモリアルイヤーと位置づけておりまして、南海地震70年、東日本大震災5年ということで、いろんなイベントもさせていただいていこうと思っております。それが一時的なものにとどまることなく、継続して、この防災意識といいますか、災害の凄さ、そういうものも目で見てもらったり、そういう機会をどんどん作っていこうかなと思っております。そして、迎え撃つ気持ちが必要ということで、事前に復興計画を立てておくべきだと。

正にこれがBCPの考えでありまして、冒頭少し触れさせていただきましたけども、このBCPは、今、企業の皆さん方もかなり進んできております。それから農業版BCP、それから水産もBCPを作りました。もちろん各行政もBCPを作っております。さらにこれに加えて、私たちが先ほど申し上げました、家族の中で、BCPを作る。これは自分たちが震災に遭ったとき、家族でどのような行動をしていくのか、どこに避難するのか、そんなものを先に当然考えておくというものでもあります。

このすべてのBCPを合わせて、地域のBCPになるまでしないと、やはり難しいのではないかと考えています。私も、東日本大震災の被災地、何度か見せていただきました。石巻、かなり復旧・復興進んでおりますが、女川、南三陸というところはなかなか進んでいない。これはよく見ていると、元々ありました水産加工業が被災を受けて、それが未だ復興していない。そこに仕事が無いので、そこに戻って家を建てようかどうか、その判断が出来ないということなんですね。石巻はそういう面では、日本製紙なんかは6ヶ月で工場復旧しました。そんなことで、皆さん安心して家を建てている。

そういうことを考えてみますと、地元の大きな産業が無くなると、やっぱり地域全体に大きなダメージがある訳でありますから、その地域を支えている産業の皆さん方には、ぜひとも企業BCPを作ってください、それと併せて、地域の皆さんと地域BCPを作っていくことが、私は大切だと考えております。

それからGさんの方からお話いただきました、介護の問題とスポーツの問題。よく徳島県では糖尿病による死亡率が、一度だけですねワースト7位になりましたけど、だいたい平均して、ワースト1が続いておりまして。スポーツ通じて、糖尿病を無くしていく。これは非常に大きな課題であります

ので、予防ですね、やっていく上で、スポーツをどのようにやっていくのか。

もちろん阿波踊り体操であるとか、いろんなどこでやっておりますが、やっぱり自分が自覚してやらないといけない。私も60になって、少し運動していないので、下手するとすぐに80にいつてしまいますが、もう少しがんばったら40代の体に回復できるとおっしゃるのであれば、私も考えてやらないかなかなと思っております。

それからHさんのところは、もんでこい丹生谷でいろいろ御活躍いただいております、本当にありがとうございます。地域の皆さん方の努力によって、IターンUターンの人が200人を超えたということでもありますので、総合的な、これから地域戦略をやっていく中でも、大きな参考にさせていただければと思います。

それからIさんのお話で、「TPP」のお話と、「きゅうりタウン」もそうでありますし、それから儲かる農林水産業に対してですね、TPPの緊急対策をやっておりまして、今回の議会でもですね、とりあえず基金として5億円、積まさせていただきました。これを5年間続けまして、25億円の基金を作ります。どちらかと言うと、守りですね。攻めの方、輸出とか、いろいろ6次産業化というのを国の方の予算でやっていく。むしろ守っていく、中山間の小さな農家の皆様方の農業を継続させるためには、県の基金でやっていくということで、今、議会の方にも提案させていただいております。

それからJ委員さんの、埋もれた文化を掘り起こす必要性ですね。徳島は農村舞台が非常に多い所で、過去2回、国民文化祭をやった初めての県といたしましても、その辺りの、地域文化を掘り起こしながら、農村舞台とか人形浄瑠璃とか、復活をさせていただきたいと思っております。来年度には、城北高校に、人形浄瑠璃部というがあるんですが、あそこの芝居小屋、それが古くなったんで改修することにしています。これは城北のためだけでなくですね、様々な、県内すべての皆さん方が利用できるような、そういう施設に出来ればと思っておりますので、そういうものを踏まえて、これからの文化活動にも取り組んでいきたいという思いです。

Kさんの話です。ジビエで大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。もう548頭も処理もしていただいているということでもあります、去年は実は6千頭近い鹿の固体管理をして、殺傷処分いたしております。おかげで鹿の被害はだいぶ減って、逆に今度は猪の方が増えている状況です。これはもう中山間に住まれる高齢者の皆さん方にとりまして、鳥獣被害の問題というのは非常に深刻な問題だと私たちも受け取りまして、それを少しでも和らげるために、殺すだけでなくて活かそうという思いで、ジビエをやらせていただいております。ムスリムのハラール、皆さん方も鹿なんかは大好きということで、御一緒に幕張メッセで出させていただきました。非常に好評で、あっという間になくなりました。私もこれから、来年に向けて鹿の、ハラールを中心にですね、中東、サウジアラビアの方にでも売り出す気持ちでおりますので、それをやるためには鹿牧場ありますし、鹿牧場やりますと今度はコストが高くなってくる。どのあたりまで鹿を、いい値段で買ってくれるかというのが最後の課題になってくると思っておりますけども、ぜひともそういうものに取り組んでいく。その中でジビエサミットですね、3回目になるんですかね、面白そうですね、やるように検討、一度ゆっくりお話を聞かせていただければと思います。

それからLさんの話ですね。ファミサポにつきましては、全県でやっと、くまなくファミリーサポートが出来ました。ファミリーサポート出来て、働く女性の皆様方に御利用いただいておりますけれども、今のお話のように、時間給とみていただく利用料が同じだと、何をしているか分からない。どういう風に解決策があるか、少し勉強させていただきたいと思います。

それから集合住宅。いろんな都会の方が来ても、すぐに住まうところが無いという事なんですかね。

(L委員)

空き家にぽこっと入ってしまうと、周りに同世代の家族がいないので、相談しても、情報を教えてもらえない。

(副知事)

同じような事がある方から聞いて。サテライトオフィスなんかが進出してきても、空き家に入ったら、やっぱり情報交換できないとか、そんな話もあって、サテライトに来てくれる皆さん方を、わりりと敷居が高くない、入りやすく情報交換出来るような、集合住宅のような所があったらいいなあというお話、いただいたので、ありがとうございました。

それから最後のMさんの話でですね、バイパスの話と洪水の話と信号の話なんで。おそらくほとんど、今、お話、お答えしていただいたと思います。一つですね、吉井の所の台風のたびに水漏れの話がありました。先ほど申し上げましたとおり、県もかなり施設もっておりますけれども、かなり古くなってきておりますので、その辺りの古くなったものをこれからどうしていくのか。全部造り替えるのか。あるいは、それを少しずつ補修しながら、長期に保たせるのか。これはですね、今回、われわれの国土強靱化の地域計画の中でも入れておる課題でございまして、その辺りをですね、いろんな地元、これは施設が市なのか県なのか分かりませんが、その関係者に一度御相談いただいたらと思います。災害の方は、本当に1万近くある危険地、全部調査を済ませまして、危険度合いにつきましても、皆さんにお知らせしていくところでございます。

本当にたくさんの御意見いただき、ありがとうございました。皆さん、すべての御意見、御質問に答えられてないところもあるかと思いますが、今日お越しいただいている各首長さんと力を合わせまして、県南部地区の振興に全力で取り組んでまいり所存でありますので、これまで以上のお力を賜りますようお願い申し上げます。本当に今日はありがとうございました。